

◇深 沢 義 一 君

○議長（伊藤福章君）次に、17番深沢義一君の一般質問を許可いたします。17番深沢義一君登壇願います。

（17番 深沢義一君 登壇）

○17番（深沢 義一君）おはようございます。通告に従いまして質問をいたします。

昨年とは打って変わり、雪の多い年となりました平成20年も、弥生3月卒業の時期を迎え、春の訪れを肌で感ずるころとなりました。3月は卒業の時節であると同時に、新たな船出の時期でもあります。それぞれが新たな海原へと航海していくわけではありますが、取りわけ県内外へと巣立つ若者には厳しい社会状況の中、たくましく前途を切り開いて進んでほしいと願うところであります。

さて、我が町美郷町も誕生から早3年と数カ月、町長の施政方針演説にもありましたように、着実に安定感と一体感を築いたところではありますが、これも一重に住民と行政との協働のまちづくりのたまものであり、旧3町村で目指してきた合併が、そして目指してきたまちづくりが間違っていなかったことのあらわれでもあると思うわけであります。そしてまた、そうしたことは「行政はみんなのもの、だから公平に」「課題は汗を流して解決するもの、だから誠実に」そして「今の頑張りが未来をつくるもの、だから未来を考えた行動を」という公平・誠実・展望を信念に融和と前進をキーワードとしたまちづくりを進めてきた町長をリーダーとする美郷町全体での成果でもなかろうかと思うところであります。

さて、その変革と財政の厳しき増す中、確かな足どりを示してきた松田丸も20年度は任期最終年度となるわけではありますが、昨日の施政方針並びに予算案につきましては、なみなみならぬ決意を感じるところであり、そうした熱く強い思いのなか政策を立て、予算を編成されてきたことと思いますが、20年度の出航にあたっては11月の改選に向けた誠実性を今定例会において示すことも、公平・誠実・展望という信念に基づく大事なことと思いますが、先ほど質問なされました戸澤議員も同じことを考えておられたのではないかと思います。早い時期に意思表示することは多数の町民が望んでいることと思ひますし、安定を求める町民に対しての義務でもなかろうかと思ひますところであります。

あわせて、引き続き町の舵取りを務めることは、町民に対しての責務でもあると思うところではありますが、町長の考えをお伺いいたします。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 深沢議員のご質問にお答えいたします。

今後の政治姿勢についてということですが、私は町長就任以来議員ご指摘の融和と前進を基本姿勢に据え、まずは各地域の見えない壁を乗り越えて、町としての一体感が早期に醸成されるよう、そして各地域が抱えている課題を解消しながら合併を踏まえてもなお臨む地域の姿に戻って望む地域の姿に向かって前に進んでいくよう、常に意識をしながら町政推進に努めてまいりました。

そうした姿勢のもと、まずはこれまでは旧町村によって違いのあった各種制度や事業の調製、統一に取り組むとともに、町民憲章や町民歌など、よりどころとしての芯づくりを進めてきたほか、旧町村からの継続事業の早期完了に意を払いながら、まちづくりの指針となる総合計画を策定し、着実性に留意したまちづくりに取り組んできたところです。しかしながら、着手時期を今後に待たせている課題もあることから、合併時に俯瞰した課題をきちんと解決するには、もう少しの時間と努力が必要な状況です。また、基礎的なことの調製を経て新たな取り組みで次なる展開を求めることが必要な状況もあるところです。

私といたしましては、こうした状況把握の中、美郷町の誕生に責任を有する一人として、そして立町以来課題解決とまちづくりに段階的に取り組んできた責任者として、今後もその役割を担わせていただきたいと考えております。融和と前進の基本姿勢のもと、公平性や将来の展望に留意しながら誠実に取り組むことで、誇れる美郷の実現を目指し、引き続きまちづくりの先頭に立って舵取りをさせていただきたく、その決意を表明させていただきます。以上です。

○議長（伊藤福章君） 17番、再質問ありますか。

○19番（戸澤 勉君） 再質問あります。

○議長（伊藤福章君） 17番、深沢義一君の再質問を許可します。

○17番（深沢義一君） 強い決意のあらわれと受けとめました。次なる展開に向け、今後も頑張りたいと思います。

真剣に誠実に頑張る人には運も人もついてくる、私はいつもそう思っております。そうした姿勢を常に持ち合わせているのが、松田町長だと私は思っております。また、そうした姿勢の町長を町民は心のよりどころとしておると思います。今後も、公平・誠実・展望という信念を貫きながら、さらなる美郷町発展のため頑張りたいと思いますし、厳しい社会醸成の中ではありますが行政と住民とが力を合わせ、町長が常々申されております「ことっとぬぐだまる町」をつくり上げていきたいものと思います。

さて、先ほどの戸澤議員の質問にも、5年後、10年後の美郷町の将来をどう描くかという質問

がりましたが、私からも将来構想の根幹について再質問をいたしたいと思います。「好きです美郷」「こととぬぐだまる美郷」をつくり上げていくためにはさまざまな取り組みが必要と思いますが、中でも少子高齢化対策はその中核、根幹となるものと思いますが、まずは結婚問題も含めた少子化対策についての考えを伺いたいと思います。答弁お願いいたします。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長自席でお願いします。

○町長（松田知己君）ただいまの再質問についてお答えいたします。

少子化対策につきましては、さまざまな課題が存在しているものと思います。一つは、出生率を上げるための問題、これは子育て環境をどうするかということであろうと思います。またもう一つは、出産される方の絶対的な人数を確保する、これは雇用対策であり、あるいは過疎対策でもあるかもしれません。それからもう一つは、そうした結婚ということに対して、生き方、結婚するという価値観、その価値観をどう育むというふうな問題であるかもしれません。そうしたいろいろな課題が複合しての少子化の現状に至っているものと、私は認識しておりますが、その中で行政として今後展開するために必要なこと、例えば子育て環境の充実につきましてはこれまでの各般の施策で町としてその環境整備に努めてまいりましたが、現在の住民からのご要望等を踏まえ、今後力を入れるべき課題の一つとして学童保育の問題も子育て支援の環境対策ではないかと考えているところです。そのため、平成20年度において今後の学童保育のありようにつきましてアンケート結果をもとに鋭意検討し、将来にわたってより子育てがしやすい環境の充実に努めてまいりたいと考えております。

また、就労の場の確保あるいは過疎対策ということにつきましては、今現在町内に存在しております誘致企業につきまして、より事業が拡大されるような支援策を講じながら、さらには新たな企業誘致についても意を払ってまいることで、雇用の場の確保、しいては出産またご結婚される方々の絶対的人口の確保に努めてまいりたいと考えているところです。さらに、結婚という価値観をどう育むかについては難しい問題があるわけですが、町としてこれまで取り組んできたその成果と反省を踏まえた場合、出会いの場について今後民間事業への支援等について検討できないかといったことを今後の課題として検討してまいりたいというふうに考えております。

以上、少子化についてはさまざまな切り口でさまざまな取り組みが考えられますが、総合的に各般の施策を講じ、今後とも少子化について町としての姿勢を示してまいりたいと考えているところです。以上です。

○議長（伊藤福章君）17番深沢義一君、よろしいですか。再質問ですか。許可します。

○17番（深沢義一君）少子化対策についてのお考えはわかりました。

先ほど申したように、少子高齢化ということで、次に超高齢化社会を迎えるに当たり、年配の方々の生きがいづくり、サポート体制も重要な項目であると思います。高齢化は、何も美郷町だけの問題ではなく、日本全体の問題でもあるわけでありますが、高齢化はしばらく続く現実、不断の姿としてとらえなければならないわけで、当美郷町においては自然豊かに地域資源のある町でありますので、そうした高齢者の方々の力を借りることによって美郷が元気になるキーワードではないかと思うわけでありますが、地域の宝であるお年寄り、年配の方々の知恵や技術を生かし、活用することで生きがいに結びつき、まさに協働のまちづくりへとつながる大事なことであると思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長。

○町長（松田知己君）ただいまの再々質問にお答えいたします。

高齢化の問題につきましては、何よりご高齢の方の生きがい、あるいは幸せ感を創出することが、地域にとって求められているように思います。幸せ感の創出には、これまたいろいろな要素があると思いますが、一つは今の生活に満足感を感じる、あるいは自分が持てる能力等について発揮することで達成感を感じる、あるいはいろいろな方と交流することによって刺激を感じる、こういったことがひいては幸せ感につながるのではないかというふうに考えております。今後、美郷町としてこれまでも各般の施策を通じ例えば生涯学習講座の充実、生涯スポーツ教室の充実、それからシルバー人材センターへの支援を通じた高齢者の方々の能力の発揮、さらにはそうした活動に参加することによって外出機会となり、その方々を通じた交流による刺激の享受、そういった取り組みに支援策を講じてきておりますが、来年度以降よりボランティアに参加しやすい仕組みづくりも重要なことと存じ、その拠点づくりに取り組んでまいりたいと考えているところです。

また、外出しやすい環境の一つに足の確保の問題があるものと思いますが、来年度以降地域内公共交通システムの構築に向けて、乗合タクシー制度を施行いたしますが、そうした各般の取り組みのもとで外出しやすく、また自分の能力を地域のために発揮しやすく、また自分の趣味もより充実させることによって今後にわたって美郷町での生活に幸せ感を感じることができるような施策を取り組み、今後にわたっての美郷町での住みよさを実感していただくように頑張りたいと考えております。以上です。（「議長、こういう進め方でよろしいんですか」の声あり）

○議長（伊藤福章君）17番深沢義一君、よろしいですか。

○17番（深沢義一君）町長の政治姿勢についての一問一答としての質問でありましたので、その根

幹となる少子高齢化についてのみ聞いたところであります。再質問ではありません。最後に一言申し上げ、質問を終わりたいと思います。私は、地域づくりに欠かせないものとして相互扶助の精神があると思っています。お互いにできることを出し合って助け合う精神、ボランティア精神がこれからの地域には欠かせないものと思いますし、行政のなすべきこと、住民も積極的にかかわるべきこと、協働参画のまちづくりに向けた意識づけをしながら、美しきふるさと美郷を築き上げていかなければならないものと思います。町長の政治姿勢、政治手腕には町民は好感と期待を持っているものと確信しておりますし、今後とも健康に留意されまして頑張ってくださいと思います。

以上で、町長の今後の政治姿勢についての質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（伊藤福章君） これで、17番深沢義一君の一般質問を終わります。